

シール訓練 アジア強化

日本バルカー シンガポールに拠点

日本バルカー工業は、工業用シール材の施工管理技能に関する教育プログラムのアジア展開を加速する。シンガポールのプロセス産業協会(ASPRI)がジュロン地区に開設したプラント技能訓練施設内に拠点を開設し、今月から運用を開始。また、国際海技訓練向けに開発した訓練プログラムが海事認証を受けた。これらを足がかりにアジアで教育プログラムのさらなる普及に努め、製品(H)とサービス(S)



ASPRIが今年に入り開設したトレーニング棟。2月に開所式が行われた

を一体提供するH&S事業の拡大を目指す。同社は製品ノウハウとIT・AI(人工知能)

を駆使して工業用シール材の取り扱いに関する技能訓練プログラムを開発。異業種連携により開

発した専用機器を導入した訓練施設「シールトレーニングセンター(STC)」と移動式STCを国内外に設置して展開している。

今年に入りASPRIがジュロン地区に開設した「Aspri Welstlite Dormitory Papan」では、トレーニング棟内に約300平方メートルのスペースを借り移動式のSTCを開発。石油精製、石油化学などのプラントオーナー、プラントメーカ

ー、プラントメンテナンスなど500を超すASPRI加盟企業を対象にトレーニングプログラムを提供していく。

シンガポールの製造業において化学・エネルギー産業は最大セクター。プロセス・建設・メンテナンス(PCM)分野における労働力不足によるコスト上昇や質の高いサービスの確保が課題とされ、PCM産業の競争力向上を目指す官民一体の取り組みが進められている。ASPRIはこの一環として、外国人労働者を対象に訓練施設併設のドミトリを開発。同社のシールトレーニングが教育プログラムの一つに選ばれた。

シールに関する知識や

取り扱い技能はプラントに限らず船舶の安全操業においても欠かせない。新たに開発した国際海技訓練向けプログラムでは、日本海事協会に海技訓練用シールトレーニングとして認定された。今年度中に国内2拠点(東京、奈良、韓国、台湾、中国、タイ、ベトナムの既存STCへ展開する方針)。

国内STCでは今年に入りトレーナーを増員し、受け入れ能力を2倍以上へ引き上げている。STCは同社の製品やサービスを吸い上げる拠点としても位置づけられており、H&S事業の充実に向けてアジア市場を深耕していく。